

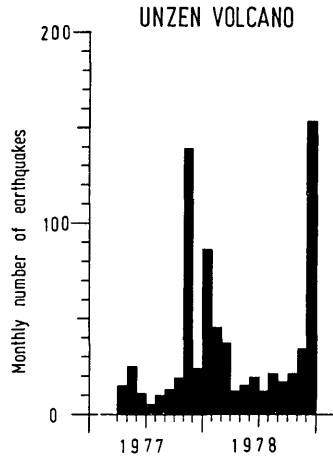
雲仙火山の活動状況、1978年^{*}

九州大学理学部島原火山観測所

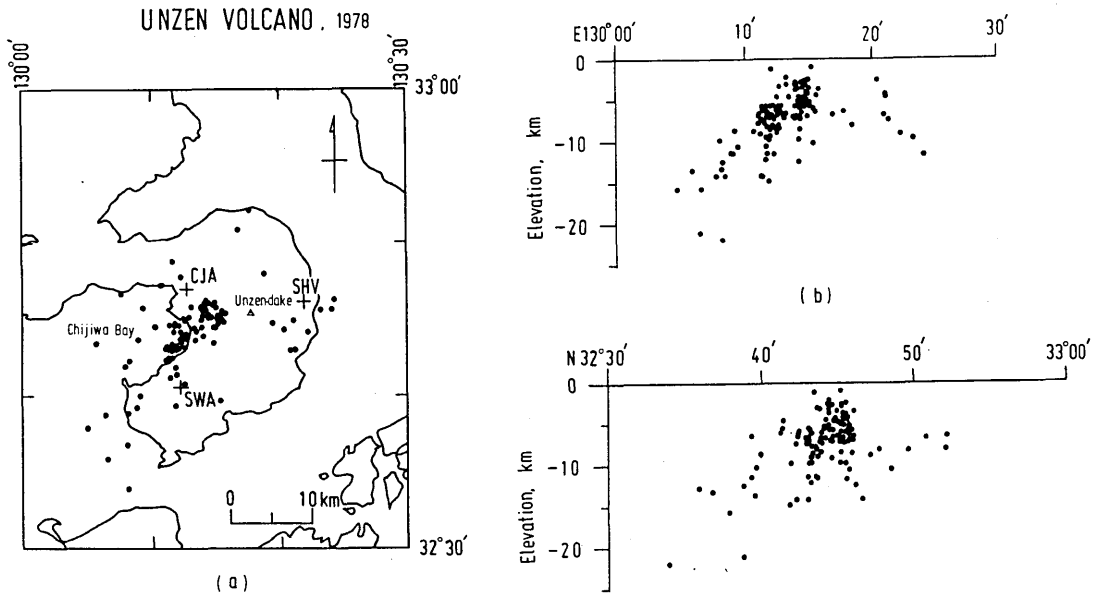
1978年1月から12月にかけての雲仙火山地域における地震発生状況は、前年とほぼ同じ程度で、比較的静穏であった。

観測された地震の年間発生回数（千々石CIAおよび小浜SWA 両観測点： $>1000 \mu\text{kine}$ ，島原観測点： $>2000 \mu\text{kine}$ ）は470回で、規模Mはいずれも1以下である。1977年4月以降の月別地震発生回数の推移は、第1図に示すとおりで、1978年1月にやや多く発生しているのは、前年11月の群発地震の余波とみられる。また、12月25～27日には、合計83回におよぶ群発地震が発生している。

これらの震源分布を第2図（a）～（c）に示す。このように、震央は主として雲仙火山西麓から千々石湾にかけて分布していて（a）、震源の深さは西側へ漸次深くなる傾向がみられる（b）。なお、東側にも、深さ10Km前後のものが若干分布している。



第1図 雲仙火山における月別地震発生回数の推移

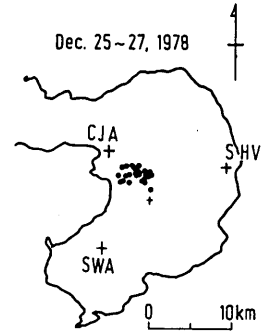


第2図 雲仙火山における震源分布（1978）

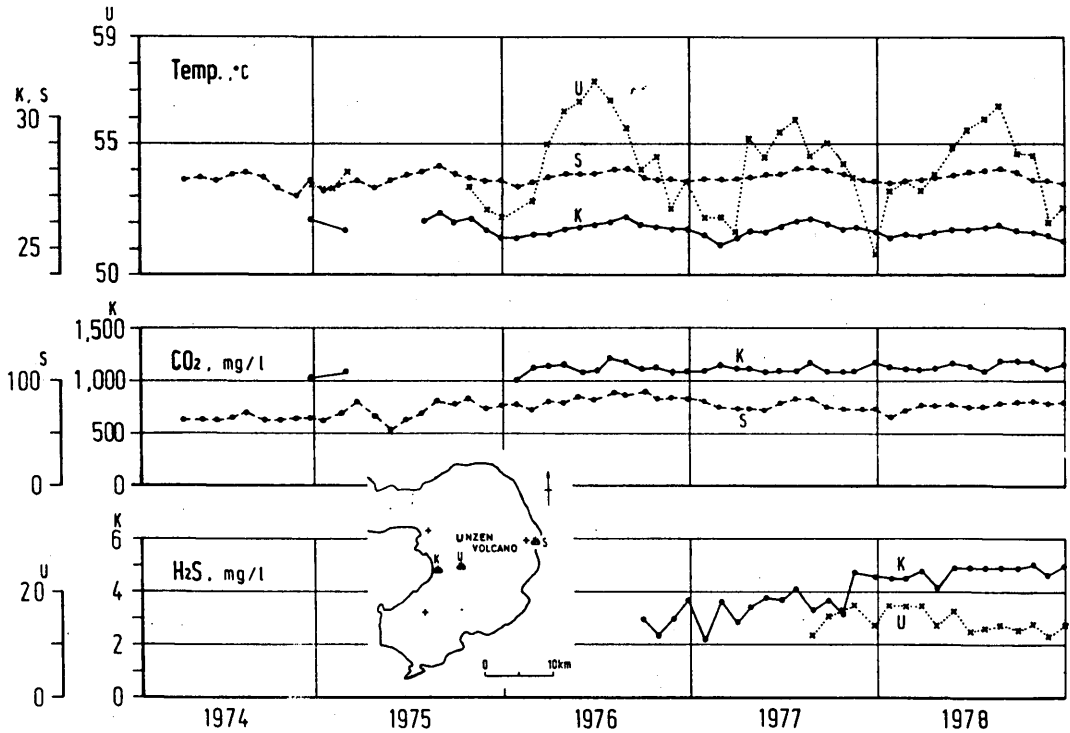
* Received May 7, 1977

第3図は、12月25～27日の群発地震の震央分布で、千々石町岳付近を中心としていて、前年11月の群発地震の震源域とほぼ同一区域に位置している。

温泉観測の結果は第4図に示すとおりで、季節的な変動を除けば、大きな変化は認め難い。



第3図 1978年12月25～27日の群発地震震源分布



第4図 雲仙火山における温泉観測結果

K : 刈水鉱泉

U : 雲仙温泉、三菱鉱業セメント源泉

S : 島原温泉、九大島原温泉観測井